

梅若会定式能

舞囃子 融

山村 庸子

能 清

経

替之型

高橋 栄子
小田切亮磨



能 楊貴妃

松山 隆雄

令和五年十月十五日(日)
午後一時開演(正午開場)

梅若能楽学院会館

自由席 七、〇〇〇円



<https://umewaka.org>

舞囃子
融

山村 庸子

大倉慶乃助 大川 典良
鳥山 直也 八反田智子

地謡
鈴木 鈴子
松山 隆之

角当 直隆
梅若 紀彰
山崎 正道

清

経

小田切亮磨
高橋 栄子
替之型

館田 善博

大倉慶乃助
鳥山 直也

八反田智子

後見
梅若長左衛門

地謡

山崎 友正 富田 雅子
梅若雄一郎 小田切康陽
内藤 幸雄 山中 逆晶
川口 晃平 角当 直隆

狂言

鐘の音

野村 裕基

石田 幸雄

《休憩十五分予定》

能
楊貴妃

松山 隆雄

宝生 欣哉

柿原 弘和
大倉源次郎

一噌 庸二

間 高野 和憲

後見
小田切康陽

地謡

梅若 英寿 山崎 正道
鷹尾 雄紀 梅若 紀彰
土田 英貴 梅若 桜雪
松山 隆之 角当 行雄

『清経』(きよつね)平清経は源平筑紫の戦いに敗れ舟から身投げし自殺した。家臣の粟津三郎は、清経の妻を訪ねて形見の遺髪を届け、清経の最期を語るが、妻は戦死か病死ならばともかく自分を置き去りに自殺した事を恨み嘆き形見の遺髪をそのまま返し涙に伏せる。すると夢の中に清経の霊が現れ、形見に残した遺髪を返した事を聞いたですと、妻は清経の霊に自分を残し自殺した事を責める。清経の霊は自殺に至るまでの有様を物語り、妻の恨みを慰め、修羅道の苦しみを見せる。そして今は最期に唱えた念仏の功德により成仏できたと妻に語り姿を消す。

『楊貴妃』(ようきき)唐の玄宗皇帝は寵妃楊貴妃の死を悲しみ、貴妃の靈魂の行方を捜すよう方士に勅命を下す。貴妃の靈魂を捜し常世の国の蓬莱宮へ方士が訪ねると、太真殿の中から貴妃の独言が聞こえる。方士が自分は勅使だと伝えると涙をたたえた貴妃が宮の中より現れる。貴妃に帝の嘆きを伝えた方士は対面した証に帝と貴妃との契りの言葉を求める。貴妃は「天に在らば願はくは比翼の鳥とならん、地にあらば連理の枝とならん」と方士に語り、天上界の仙女でありながら人間界の楊家に生まれ帝と深い契りを交わした思い出を舞うが、方士が去るとまた一人淋しく仙郷に残る。

<JR線>
・総武線・東中野駅西口 徒歩8分

<地下鉄>
・大江戸線 東中野駅 A3出口
・大江戸線 中野坂上駅 A2・2出口
・丸の内線 中野坂上駅 A2・2出口
いずれも徒歩8分

<バス>
①関東バス(宿05:中野駅経由)
新宿西口→野方行 宮下交差点下車
②関東バス(宿05:中野駅経由)
野方→新宿西口行 東中野2丁目下車
③京王バス(渋64:中野坂上経由)
渋谷→中野駅南口行 宮下交差点下車
④京王バス(渋64:中野坂上経由)
中野南口→渋谷行 東中野2丁目下車

*当会館は駐車場はございません。
ご来場の際は電車、バス等をご利用下さい。

東京都中野区東中野2-6-14
(公財)梅若会
(梅若能楽学院会館)
TEL: 03-3363-7748
FAX: 03-3363-7749



【観能チケットとお願い】

- ◆自由席 7,000円・賛助会員券 48,000円(8枚綴り券)・正面指定料別途1,000円(指定のご希望は公演1週間前までお申し込み下さい)
- ◆チケットは梅若会HPからメールまたは電話、ファクスにて郵便番号、ご住所、お名前、ご連絡先電話番号、ご希望席種をお書きの上お申し込み下さい。(https://umewaka.org/ TEL 03-3363-7748 (不定休)・FAX 03-3363-7749)
- ◆都合により出演者、曲目に変更がある場合がございます。
- ◆当日のクローク(荷物お預かり)は閉鎖させていただきます。
- ◆梅若会の感染予防対策の取り組み内容
当能楽堂内は株式会社松美家様のご協力により、光触媒(抗菌)コーティング加工済ですので安心してご観能下さい。
- ◆観能に際してのお願い
入館時における検温・消毒、個人情報の提出にご協力下さい。他のお客様へのご配慮として、マスク等の着用をお願い致します。また、お客様ご自身による健康管理をよろしくお願い申し上げます。
※個人情報は チケット裏面に記入頂きます。



梅若会定式能 令和5年10月15日(日)

能『楊貴妃』

—幻術士が楊貴妃の靈魂を尋ねて玄宗皇帝との私語を聞く—

能 「楊貴妃」 シテ(楊貴妃ノ靈) 松山 隆雄

ワキ(方士) 宝生 欣哉

□見所

◎運命的な死を遂げた楊貴妃は今、他界で生きている。玄宗皇帝は彼女の魂のありかをたずねる為、幻術士を派遣させる。幻術士が訪ね当てると蓬萊宮という仙郷に楊貴妃が住んでいた。彼女は玄宗皇帝の使いと聞き、金箔に美しい刺繍をした鬘帯を沢山垂らした作り物「玉の簾」をかかげて姿を見せる。

◎帝とお二人だけで交わされたお言葉をと方士に問われ、

「天にあらば願わくは比翼の鳥とならん。地にあらば願わくは連理の枝とならん」と誓ったと語る。

◎お言葉を聞いた方士が喜んで帰ろうとすると楊貴妃はこれを止め、この釵を付けて舞った「霓裳羽衣(げいしょううい)の曲」を、地謡が謡い奏でる愛の日々を懐かしく思い浮かべながら美しく舞います。

□金春禪竹の作

□白樂天の「長恨歌」による

他に 能「清経」替之型 シテ 高栄英子

舞囃子「融」 山村庸子

狂言「鐘の音」 野村裕基